

【AED（自動体外式除細動器）の使い方】

AEDは、心停止の原因が心室細動や心室頻拍である場合に電気ショックを与えて、心臓の正常なリズムを回復させる装置です。

AEDの操作は簡単で、音声ガイドに従って進めます。



1. AEDを傷病者の近くに置きます。
2. AEDのふたを開け、電源を入れたら、以降は音声メッセージと点滅するランプに従って操作します（ふたを開けると自動的に電源が入る機種もあります）。
3. 電極パッドを患者の胸、胸の右上（鎖骨の下）および胸の左下側（脇の5～8 cm下）の位置に貼り付けます（貼り付ける位置は電極パッドに絵で表示されています）。
4. AEDが心臓のリズムを解析し、ショックが必要かどうかを判断します。
5. ショックが必要と判断された場合、AEDの指示に従ってボタンを押して電気ショックを行います。ショックボタンを押す際は、必ず自分が傷病者から離れ、誰も傷病者に触れていないことを確認します（電気ショックが加わると、傷病者の腕や全身の筋肉が一瞬けいれんしたようにビクッと動きます）。
6. ショック後はすぐに胸骨圧迫を再開します。心肺蘇生を再開して2分ほど経ったら、再び、AEDが自動的に心電図の解析を行います。音声メッセージに従って傷病者から手を離し、周りの人も、傷病者から離れます。
7. 以後は、＜4 心電図の解析、5 電気ショック、6 心肺蘇生の再開＞の手順を、約2分間おきに繰り返します。

※参考 心肺蘇生を中止するときは

① 救急隊に引き継いだとき

救急隊が到着したら、傷病者の倒れていた状況、実施した応急手当、AEDによる電気ショックの回数などをできるだけ伝えます。

② 傷病者が目を開けた、あるいは普段どおりの呼吸が出現した場合

気道確保が必要になるかもしれないため、慎重に傷病者を観察しながら救急隊を待ちます。この場合でも、AEDの電極パッドははがさず、電源も入れたままにしておきます。吐物などによる窒息の可能性がある場合や、やむを得ずその場を離れる場合は回復体位（下図参照）にします。

